

平成30年
企画展

中山忠彦

— 永遠の美を求めて —



《縫衣立像》2011年

平成30年

平成31年

11月3日(土・祝)～1月20日(日)

【開館時間】9:00～16:30 (11月3日のみ11:00開場)

【休館日】月曜日(月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日)、年末年始(12月28日～1月4日)

【入場料】一般500(400)円／高校・大学生250(200)円 ※11月3日は入場無料

※()内は20名以上の団体料金、中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と介護者1名は無料。

【主催】千葉県立美術館 【後援】千葉テレビ放送、ベイエフエム、千葉県ケーブルテレビ協議会、千葉日報社、朝日新聞社千葉総局、産経新聞社千葉総局、日本経済新聞社千葉支局、毎日新聞社千葉支局、読売新聞千葉支局、東京新聞千葉支局(順不同)

CHIBA

千葉県立美術館 

中山忠彦

— 永遠の美を求めて —

千葉県市川市在住の中山忠彦（昭和10年～）は、現代日本洋画壇を代表する画家の1人です。日展、白日会展を中心に活躍し、日本芸術院会員、日展理事長・顧問、白日会会長等を務め、気品あふれる女性美を追求した作品で知られます。

中山は福岡県小倉市（現・北九州市）生まれ、大分県中津市で育ちます。高校卒業後、上京して伊藤清永絵画研究所に入門し、約4年間で弟子として指導を受けたのち独立。裸婦像など、師の影響が顕著な時期を経て、妻となる良江夫人との出会いをきっかけに、結婚後は市川市に居を移し、夫人を主たるモデルとした着衣の女性像を描くようになります。

中山が描く女性が身にまとうのは、作家本人が収集したアンティーク・ドレスの数々です。ベルベットやシフォン地、またレース等の繊細で質感豊かな表現により、ドレスはモデルの内面を浮き立たせ、中山はそれを普遍的な美の世界へと昇華させます。

本展では、最新作を含め油彩画や版画、デッサン等75点の作品と共に、制作に使用されたドレスや帽子、扇子等画家自身の貴重なコレクションを展示します。初期から現在に至るまでの60年以上に及ぶ画業をたどり、中山忠彦が描く女性美の魅力に迫ります。



《四十五年目の良江》2008年

関連事業

記念対談「中山忠彦の美をめぐって」

講師：中山忠彦氏、瀧 梯三氏（美術評論家）
日時：平成30年11月24日（土）14:00～15:30
会場：県立美術館講堂／定員：200名
聴講無料、先着順（当日13:30から受付）

ワークショップ「じぶんサイズあーと」

等身大の自分のかたちを「いろやもよう」をつけてみよう。
日時：平成30年11月17日（土）13:00～15:30
対象：小学生1名と保護者1名1組 25組
会場：県立美術館アトリエ棟
参加費：800円
※往復はがきによる事前申し込み、11月7日（水）締切

ギャラリートーク

期間中、第2・4日曜日 14:00～
参加無料（入場料は必要）、事前申し込み不要

※関連事業の内容や日時は都合により変更となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。詳細は決定次第、当館HPなどでお知らせします。



《窓辺》1954年／中津市木村記念美術館蔵



《群像》1966年



《縞衣》1981年



《シャンティエ・ショール》2007年／市川市蔵



◎電車・モノレール：JR京葉線または千葉都市モノレール「千葉みなと」駅下車徒歩約10分 ◎バス：JR総武線「千葉」駅西口26番のりば千葉みなとループバス（タワーコース）「千葉ポートタワー」行「県立美術館入口（千葉みなとリハビリ病院）」下車徒歩約3分 ◎自動車（駐車場無料・78台うち2台障害者用）：東京方面から東関東自動車道「湾岸習志野」I.C.／成田方面から京葉道路「穴川」I.C.／東金方面から千葉東金道路「千葉東」I.C.／館山方面から京葉道路「松ヶ丘」I.C.から、それぞれ約20分

千葉県立美術館

260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1
TEL: 043-242-8311
<http://www2.chiba-muse.or.jp/ART/>

